

動労千葉を権力に売り渡した

動労「本部」革マルを一掃せよ



日刊 動労千葉

81.8.23 全国版 No. 94

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五〜六(公衆)〇三三(22)七二〇七

囚間の獄中完黙闘争貫徹し、六名の仲間奪還

全国の動労組合員の皆さん! 闘う仲間皆さん!

動労「本部」革マル反動分子のデッチ上げ告訴によって不当にも逮捕されていた六名の戦闘的同志達は、七月三十一日、権力の十七日間におよび長期勾留攻撃を完黙・非転向のたたかいではねかえし、勝利のうちに戦列復帰したことを報告します。三里塚労農連帯・国鉄三五万人体制攻撃粉碎を基軸に、八・三ジェット決戦ストライキへの四名の解雇・七名の停職を含む二二五名の報復処分攻撃をはねとばし八〇年代労働運動の戦闘的再生を闘いとらんと前進するわが動労千葉をこともあろうにデッチ上げ告訴し、警察に売り渡して組織解体をもくろんだ「本部」革マル反動分子の反階級的行為は、ここに、完膚なきまでに粉碎されたのであります。わが動労千葉はこの勝利の地平をうちかためつつ、労働組合の原則をふみにじり、権力の側に身も心もすり寄せて告訴路線を正当化する「本部」革マル反動分子を一掃し、動労大改革へむけてより一層前進することを明らかにします。

逮捕一起訴一首切りを要求する
「本部」革マル反動分子

十名への告訴・告発、六名への不当逮捕、三名への不当起訴というこの全過程で明らかにしたこと、いまや「本部」革マル反動分子は全国の労働者の敵であり、権力・国鉄当局の尖兵であるということであり、

その第一は、告訴・告発をもって動労千葉破壊のために労働者を警察に売り渡すという、もつとも恥ずべき裏切り・通敵行為をしたことではありません。

しかも「本部」革マル反動分子自らが、七九年四・一七津田沼支部への武装襲撃を行い、片岡津田沼支部長に頭蓋骨折・三ヶ月の重傷を負わせたとのをはじめ、多数の組合員に重軽傷を負わせるという暴力テロ行為を加えた張本人であり、また、それを内部から手引した張本人・スパイ革マル分子川嶋田誠が鉄労以下のコロビ「事件」をデッチあげ、タレコミ告訴をしたという今回の全過程を通して、その反階級性・反労働者性は明白ではありませんか。

さらに、告訴しただけではあきたらず、われわれの確な反撃によってデッチあげの事実の数々が暴露されはじめたとみるや、七月八日早朝、九〇名の警察機動隊・公安刑事を津田沼電車区構内に水先案内人よろしく導入し、自ら身ぶり手ぶりでデッチあげ「事件」を再演し四時間にわたって「現場検証」をデッチあげ、なんとしてでも警察

に逮捕させようとしたのであります。

このような「本部」革マル反動分子の告訴・告発と現場検証にもついで七月十五日早朝、八ヶ所への強制家宅捜索と六名の不当逮捕が強行されたのであります。

そればかりか、六名の同志が完黙・非転向で奪還されるや、今度は、こともあろうに、不当にも起訴された三名の同志の首切りを当局に要求するという破廉恥な行為にでているのであります。

これはもはや労働組合の名を僭称するファシストそのものの行為であり、断じて許せないものであります。

いまこそ動労大改革へ

全国の動労組合員の皆さん! このように動労の名をもって権力に告訴し、逮捕一起訴一首切りを要求するにまで到った「本部」革マル反動分子を絶対に許してはなりません。

「三里塚を闘う者」ネオ・ファシズム勢力」ときめつけ、「日共との野合」で戦闘的翼を圧殺することを目的とする彼らの自称「反ファシズム統一戦線」なるもののベテンの・反動的本質が、まさに、この「告訴路線」そのものなのです。

それゆえに、三七回全国大会で動労の真の戦闘的發展を願うがゆえに告訴反対の発言と抗議の退場権行使こそ、心ある全国の良心的動労組合員の声を代弁し動労の良心をさし示した勇氣ある正義の決起であるといえます。

また、全職場にまき起る弾劾の声をうけて、「本部」反動分子のこのあまりに反労働者の路線の引きまわしに完全にいや気がさした、津田沼の「本部」派組合員二名は「告訴路線は誤まっている」として去る八月五日付で動労「本部」を脱退し、

他の一名も同様理由で「国鉄をやめたい」としてすでに長期病欠届を出して休んでしまっているありさまであり、大動揺と解体へ突き進んでいます。全国の動労組合員のみなさん!

「本部」革マル反動分子の告訴路線を粉碎せよ! いまこそ動労千葉とともに動労大改革へ前進しよう!